

# 研究開発成果実装支援プログラム 評価報告書

平成 25 年 2 月

研究開発成果実装支援プログラム PO・AD 委員会

## 課題

名称：発達障害の子どもと家族への早期支援システムの社会実装

期間：平成 21 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日

実装責任者：国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所  
児童・思春期精神保健研究部 部長 神尾陽子

## 1. 総合評価

十分な成果が得られたと評価された。発達障害の早期発見・早期治療は全国共通の課題である。実装責任者の働きかけによって、10年ぶりの母子健康手帳改定に際して、M-CHAT<sup>1</sup>の項目が加えられたことは特筆に値する。発達障害を抱える子どもと家族への早期支援のための取り組みを事業化した自治体は、当初目標であった2自治体を大きく上回り、新たに10自治体加わるなど、十分な成果が得られた。実装責任者は、発達障害に対する理解と支援システム普及のために、研修会・講習会・シンポジウムを積極的に実施した。我が国では、乳幼児のノンバーバルな社会性（言語によらないコミュニケーション）の発達に関する正しい知識や情報が共有されているとは言い難い。また、専門家の人材育成など、地域格差が大きく課題が山積しているのが現状である。したがって、全自治体においてM-CHAT方式の乳幼児健診制度が導入されるよう、関係諸機関に対するアプローチを継続してほしい。さらに、M-CHATの広範囲な利用を促進するために、それを可能とする体制づくりを期待する。

## 2. 各項目評価

### (ア) 実装支援の目標の達成状況

当初の目標を超えて達成されたと評価された。本プロジェクトの開始時は、舞鶴市と新居浜市を拠点に実装活動が展開されたが、最終的には全国12自治体でM-CHATを軸とする評価システムの導入が決定した。この結果、自治体ごとに独自方式が採られてきた乳幼児健診の標準化が大きく前進した。実装地域においては、経験と熱意にあふれたリーダーと自治体職員が協力しながら乳幼児支援に取り組んでいる。また、母子健康手帳にM-CHATの項目が盛り込まれ、啓発リーフレットなども作成されたことから、本プロジェクトの成果が全国規模で拡大する可能性は大きい。ただし、福祉分野における社会実装として不可欠である、制度化や人材育成については改善の余地が残っていると考えられる。

---

<sup>1</sup> The Modified Checklist for Autism in Toddlers：乳幼児を対象として自閉症をスクリーニングするために作られた質問紙。

(イ) 実装支援終了後の実装の継続及び発展の可能性

大いに可能性ありと評価された。実装活動の成果が各地で評価され、全国 70 自治体の関係者が e-ラーニングや DVD 教材によって、発達障害支援の基本的知識を学んでいる。10 以上の市町村は、M-CHAT に基づく評価システムの導入を決定し、事業計画が具体化している。これらの事実から考えると、本方式が全国規模で定着する可能性は非常に高い。また、実装活動を通じて小児科医の参加を得ることができた。今後は、地域リーダーの育成に重点を置き、さらにリーダーを支えるスタッフの意識付けのための研修会や勉強会を継続的に実施する必要がある。

(ウ) 組織体制は適正であったか

適正であったと評価された。厚生労働省の支援を得て発達障害早期総合支援研修を実施するなど、各機関を統合しながら目標達成に努めた。実装責任者は、医療関係者や教育関係者と積極的に交流することを通じて、発達障害の子どもの早期発見や早期支援の必要性を理解してもらえよう取り組んだ。その結果、行政、保健所、保健師、心理士、福祉職、小児科医等を巻き込んだ実践的な組織体制を作り上げることに成功した。福祉分野の実装活動を展開する場合には、早期の段階から自治体を協働推進者として位置づけた上で、自治体が主体的に制度化や人材育成に取り組める仕組みが不可欠である。このような視点を導入していくことで、実装活動の継続性や可能性は更に広がりを見せるはずである。

3. その他特記事項

M-CHAT の項目が母子健康手帳に追加され、多くの自治体が乳幼児健診で M-CHAT に基づく評価システムの導入を決定したことから、すでに全国規模での実装が実現しつつあると言える。今後、発達障害を早期発見することによる治療効果が定量化されれば、本方式の全国的な普及は更に加速するものと思われる。M-CHAT の強みは、簡便かつ確実な方法で、乳幼児の発達レベルを測定できる点であり、乳幼児健診の全国標準化に向けて貴重なモデルケースとなった。実装責任者の精力的な活動に敬意を表する。

以上